

# 令和8年度 第18回 大学院セミナー

令和8年7月1日

分野名 Area of Research (責任者名)(内線)	統合脳神経科学分野 責任者名( 増井 憲太 ) 内線( 7033 )
演題 Title	認知症をきたす疾患の神経病理学 Neuropathology of dementia disorders: insights into practical diagnosis and cellular mechanisms
講師等 Presenter	柿田明美 先生 新潟大学脳研究所病理学分野 教授 新潟大学 ChBRI シブリ センター長
概要 Abstract	<p>本大学院セミナーではまず私共が経験してきた剖検例を対象に、認知症をきたすさまざまな疾患の臨床病理像の実際を取り上げます。3つの proteinopathies (tauopathy、synucleinopathy、TDP-43 proteinopathy) や、白質脳症などの細胞病理の特徴を私なりの見方で概説いたします。神経細胞とともにグリア細胞も病態に関与していると考えられますが、その関与の仕方は疾患ごとに随分と違いがあるように思われます。</p> <p>次に、細胞・分子レベルの病態形成機序に関する最近の取組みを紹介いたします。ひと剖検脳組織を用いた snRNAseq や空間トランスクリプトーム解析が可能となり、神経変性疾患の分子病態に関する新たな知見が得られてきています。組織透明化技術と 3D 解析法は、アミロイド血管症のように病変がことさら立体的な病態の理解に威力を発揮します。</p> <p>神経病理学は患者さんお一人おひとりに対する確かな臨床病理学的理解を基盤としています。同時に、PET プローブやバイオマーカー開発などの橋渡し研究、更には創薬や基礎研究にも有用な、良質なリソースと病理情報を提供し得る役割を担っています。神経病理学は、臨床から病態研究や創薬まで、様々な専門分野の大学院生が進めている研究にも役立つかもしれない：そんな印象を持って頂けるセミナーとなるよう努めてみます。</p>
開催日時 Date and Time	令和8年 7月 8日(水) 18:00 ~ 19:30
開催方法 Online/Face to face	医学部基礎棟 第1講義室
備考 Notes	

- 先端医療科学特論(基礎編)
- 先端新興感染症病態制御学特論
- 日本語(Japanese)
- 対面(Face to face)

- 先端医療科学特論(臨床編)
- 先端放射線医療科学特論
- 英語(English)
- オンライン(Online)